

特集にあたって

群馬大学整形外科 筑田博隆

社会の高齢化に伴い、脊椎脊髄外科の治療対象も大きく変化した。今回の特集のテーマである成人脊柱変形は、高齢化に伴い増えつつある疾患の1つである。近年、成人脊柱変形は、QOLの低下につながる重要な病態であることが認識され、積極的に手術治療が行われるようになった。成人脊柱変形の治療は、いまや脊椎脊髄外科の大きな柱といえよう。

成人脊柱変形の治療は、決して容易ではない。高齢者に対する侵襲性が高い治療であるがゆえに、ときに命にかかわるような全身合併症も起こり得る。こうした合併症にどう対処すべきかを熟知し、迅速に対応しなければならない。また、骨質が不良な場合も多く、インストゥルメンテーションも難易度が高い。特に、多彩なインプラントをいかに使い分けるかという点で、経験が必要になる。成人脊柱変形の治療においては、ほかの疾患以上に知識と経験の“総合力”が要求される。

今回の特集号では、脊柱変形の治療にこれから取り組む先生の指針となることを目指した。学会のセッションに参加しても、略語や専門用語が飛び交い、「初学者」には敷居が高い。また、基本となるコンセプトやこれまでの経緯を知らなければ、いったい何がdiscussionのポイントになるのかすら掴めないだろう。そこで本特集号では、脊柱変形治療の全体像を、すべて基本に立ち戻って解説していただいた。これまで敬遠気味だった先生にもぜひ手にとっていただきたい。

一方、ベテランの先生方にも、前回の特集号「高齢者の脊柱変形 Up to Date」(2017年)以降の新しい知見が数多く盛り込まれており、読み応えがあることと思う。脊柱変形治療の進歩はすさまじく、日々発表される論文すべてをフォローすることは難しい。ぜひこの特集号で、エキスパートが厳選したエッセンスをお読みいただきたい。

すべての項目を、トップランナーというべき施設から気鋭の先生方にご執筆いただいた。お忙しい診療の中、ご執筆いただいた先生方に深謝したい。カンファレンスで治療方針を討議する際には、この特集号をぜひ利用していただきたい。最善の治療選択に役立てていただければ、これにまさる喜びはない。日々、成人脊柱変形の治療にあたっている先生方にとって、本誌が最良の案内人になることを念じている。